

出雲地区

保護司会だより

第16号

子どもたちへの虐待と非行

島根県出雲児童相談所 所長 石橋 昌彦



児童相談所は、家庭や学校などから寄せられる十八歳未

満の子どもに関する様々な相談に応じ、子どもやその家庭への援助を行うために設置された県の行政機関の一つです。

様々な相談の中でも、児童への虐待を含む「養護相談」が相談件数全体に占める割合は、平成十二年に「児童虐待防止法」が施行される前は約一割程度でしたが、平成二十二年度では四七・五%を占めるまで増えてきています。

虐待には、保護者からの殴る蹴るといった「身体的虐待」だけでなく、性的な不適切な行為を伴う「性的虐待」や子どもの健康や安全への配慮を拒否したり怠る「ネグレクト」、暴言や差別などにより子どもの心を深く傷つける「心理的虐待」があります。いずれの虐待も子どもの身体と心に深刻なダメージを残すことにな

りますが、その影響が成長の過程で様々な不適応行動という形で現れてくる場合があります。

非行や犯罪を犯した少年の中には、過去に虐待を受けてきた者が多いというデータがあります。少し古い資料になりますが、法務総合研究所が平成十二年七月に全国の少年院の中間期教育課程に在籍している二千三百五十四名を対象に調査・分析したところ、家庭から身体的暴力、性的暴力、不適切な保護態度のいずれか一つでも受けた経験のある者は全体の七〇%を占めていたそうです。

厚生労働省が平成二十年二月に行った実態調査によると主に非行児童が入所している全国の児童自立支援施設の入所児童千九百九十五名のうち六五・九%が被虐待経験者であったと報告しています。

虐待を受けた子どもは、本来ならば一番安心して過ごせる場である家庭に落ち着くことができず、盗みや家出などの非行を繰り返す中で家庭や社会からの孤立感・疎外感を一層

強め、より深刻な非行へとエスカレートしていく危険性を持っていると言われています。

こうした不幸な子どもたちを一人でも作らないために、虐待を受けている子どもの早期発見と多くの関係機関が連携協力して行う早期支援がとても重要になります。

現在、出雲市では市内の児童福祉機関、保健医療機関、教育機関、警察・人権擁護機関など三十の関係機関・団体が構成する「要保護児童対策地域協議会」が児童虐待の予防・防止を果たすために機能しています。もちろん、出雲地区保護司会もこの構成団体の中に入っています。

もし、この会報をご覧の皆様の方に「これは虐待かもしれない」とお感じになるようなことがあれば、どうかためらわず、出雲市子育て支援課あるいは児童相談所までご連絡をお願いします。



人はみな、
生かされて
生きてゆく。
更生保護ネットワーク60周年

平成23年度 「社会を明るくする運動」 標語及び作文入選作品の紹介

出雲地区保護司会では「犯罪のない明るい街づくり」「青少年の非行防止」をアピールする標語を、一般の部、小・中学生の部として募集しました。

標語一般の部に、出雲市、斐川町にお住まいの方から総数150点、小・中学生の部で斐川町から小学生312点、中学生46点の応募がありました。

出雲市では出雲市青少年育成市民会議と共催し、小学生613点、中学生680点の応募がありました。

また、島根県社会を明るくする運動推進委員会が行った作文コンテストに協力し、小・中学校に参加を呼びかけたところ、小学生から56点、中学生から33点の応募がありました。

当保護司会で慎重に審査した結果、次のとおり決定しました。ここに掲載させていただきます。(標語の小・中学生の部については、合併以前の各市町毎に募集し決定しています。)

一般の部

最優秀賞

見ぬ振りを

せすに一言 声かけて

平田町 磯崎 又司

優秀賞

やりなおそう

君ならでできる 信じてる

大津町 石橋 律子

誘惑に

負けない勇氣 強い意志

芦渡町 石橋 厚

ひとりじゃない

きみを支える 皆がいる

白枝町 谷口 康治

立ち直る

君の気力と 地域の絆

西代町 磯崎 健司

まごころで

信じて見守る 更生の道

斐川町 古川 直子

佳作

さしのべる

手と手で築く 絆の輪

佐田町 渡部美紀子

あたたかく

手を差し伸べて はげまして

大社町 林 宏

立ち直る

君の未来を 信じてる

神西沖町 平井 信子

立ち直り

みんなで応援 明るい社会

大社町 伊野木 正

だいじょうぶ

君のそばには ぼくがいる

斐川町 大森 茂樹

ありがとうごめんなさい

素直に言える明るい社会

小伊津町 土江 佳子

あいさつは

君を認める 第一歩

上塩治町 錦織 孝司

更生は

心溶け合う 対話から

天神町 高橋 岩子

やめようと

気づいた時点が 出発点

高岡町 池田 圭子

子と思う

親の躰に 光る明日

天神町 高橋 弘吉

出雲市 〈小学生の部〉

最優秀賞

一人じゃない

君のとなりこ ぼくがいる

北浜小学校 五年

錦織ひろか

優秀賞

いじわるは

言わない やらない

やらせない

東小学校 三年

江角 朋哉

ごめんねと

すなおに言える その気持ち

東小学校 四年

曾田 遥菜

出雲市 〈中学生の部〉

最優秀賞

あいさつと

笑顔たえない 町づくり

第三中学校 一年

安達 友香

優秀賞

まず行動

立ち止まってちゃ

始まらない！

第三中学校 三年

岡本 侑平

助け合い

持つてる力は 無限大

第三中学校 三年

保科 有希

斐川町 〈小学生の部〉

最優秀賞

犯罪を するな さそうな

まきこむな

莊原小学校 五年

渡部 友喜

優秀賞

さべつしない

小さなぼくらも できるはず

出東小学校 四年

藤田 港人

考えよう

言われてうれしい いい言葉

中部小学校 五年

川田 紗瑛

斐川町 〈中学生の部〉

最優秀賞

見つけたよ

きみのいっしょ またひとつ

斐川西中学校 一年

堀江 海星

優秀賞

あたたかい

きみのひと言 身にしみた

斐川西中学校 一年

千葉 孝光

あいさつで

みんなsmile 僕もsmile

斐川東中学校 二年

富岡 寛太



「社会を明るく
する運動」
作文コンテスト優秀作品

私の帰り道

湖陵小学校五年

桑原みき

わたしの学校の帰り道は、あまり楽しくありません。いつも三人で帰るのですが、と中で絶対にけんかになります。いつも意見が合わなくて、口げんかになってしまふのです。だけど、

「言い合いはやめようよ。」
と言う勇気がわたしにはありません。

このことを家の人や先生に相談すると、もっとけんかになると思い、だれにも言えずにいました。何回もこういことが続き、帰り道のことを考えると(学校に行くのがいやだな。もう学校を休もうかな。)と思うようになりました。だけど、学校の友達や先生に会いたいの毎日学校に行きました。ある日、学校の相談室に行ってみようと思いつきました。そこには、田口先生という相談員の方がおられます。そこでわたしは、

「帰り道、いつも友達と口げんかになって、とてもつらいです。」
と泣きながら話しました。すると、

田口先生は、

「そうだったの。いやだったね。みきさんは友達のことを気づかって、ずつがまんしていたんだね。やさしいね。」

と言われました。ただ困ったことを話したただけなのに、泣いているのに、初めて「やさしい」と言われて、わたしはとても心が落ち着きました。心が少し軽くなって、そして勇気をもらった気がしました。

次の日、学校に行くと同じ帰り道の友達に、

「みき、相談室に行ったんでしょ」と言われました。わたしは、どきどきしました。でも、

「いいじゃん。いやだったんだから。」

と言いつ返すことができました。わたしは、自分がいやだったことを、初めて友達に言い返しました。(またけんかになるのかな。これから、もう一緒に帰ることができなくなるかもしれない...)と不安になりました。

けれど、それからの帰り道は、お互いが言葉づかいや言い方に気をつけるようになり、少しずつけんかが少なくなっていきました。今では、学校であったことや友達のことなどを話しながら、にぎやかに帰っています。

わたしは、このことですごくいやな思いをしたけど、田口先生がおられたから乗りこえられました。困ったことがあった時、一人で考え込まないで、近くの人に相談することはとても大切なことだと感じました。そして、自分がいやだと思ったことは、がまんするだけでは解決しないということにも気づくことができました。

また、自分がいやな思いをしていること、困っていること、相手に直してほしいこと...それらのことを相手に伝えるのは、今まで、なんだかいけないことのような気がしていました。でもそうではないことも分かりました。きちんと思いを伝えれば、相手の人は真剣に考えてくれます。それに、お互いに気をつけることができるし、友達とももっとよくなかよしになれるでしょう。

わたしは、これから身近に困っている人がいたら、わたしがしてもら



挫折から学ぶこと

斐川西中学校一生徒

私が杉山さんのトークショーで一番印象に残ったのは「挫折からたくさんの方を教わった。」という言葉でした。杉山さんのお話の中からは「挫折には意味がある。挫折を恐れるな。」というメッセージが強く感じられました。そのころ、部活で行きづまりを感じていた私は、杉山さんの言葉でずいぶん心が軽くなりました。

杉山さんは、小学校までは「優等生」と呼ばれ、挫折を全く経験せずに育ってきたそうです。薬物依存という過去からは想像のつかない意外な過去に驚きました。その後、中学生のころから勉強に嫌気がさし、薬物に手を出すようになります。このころから杉山さんにとって大きな挫折が始まりました。「今思えば、幼いころにもっと挫折を経験しておくべきだった。」と後悔する気持ちもあるそうです。

今まで私は「挫折」というと、しないほうがいい、避けて通ったほ

ったように、話を聞いて力になってあげたいです。また、正しいと思うことは相手にきちんと伝えたいです。わたしたちの社会は、困っている時に力を貸す「助け合い」と、自分の思いをきちんと相手に伝える「勇氣」があれば、もっと明るくすることができると思います。

自分から

南中学校一年

吉田 周平

電車で、お年寄りの人が立っています。皆さんは、こんな場面を見たことはありませんか。

僕は、この場面に一度遭遇したことがあります。その時は電車が混んでいて、おばあさんが立っていて僕は座っていました。僕は、心の中で席をゆずろうと思いました。しかしいざ席をゆずろうと思ってもなかなか声がかけれませんでした。そして、声がかけれないまま、そのおばあさんは途中で降りてしまいました。僕は、後から後悔しました。僕の心の中には、ゆずろうと思う気持ちと誰かがゆずってくれるだろうと

いう気持ちの両方がありました。そして、誰かがゆずってくれるだろうという気持ちの方が大きくなってしまい、席をゆずれなかったと思います。おそらく、このような気持ちは僕だけでなく、ほかの人も感じているのではないかと思います。ほかに同じような事がありました。

駅前で募金をやっていて、僕は入れようと思ったけど、自分だけ入れるのは恥かしいと思って、人が入れるのを待っていました。このように、「自分から」ではなく「ほかの人から」という行動が多くなっています。時には、この行動が命にかかわるといふ事が分かりました。

ずっと前にニュースを見て事件が起きた事を知りました。その内容は、バスの中に煙がたちこめているのにバスの乗客の人は、一人も出ようとしないかったという内容でした。なぜ、煙がたちこめているにもかかわらず一人も出ようとしないかったのでしょうか。おそらく、「人が出ないからだいじょうぶ。」とか「自分一人だけが出るのは変だから周りの人が降りたらいっしょに出よう。」という気持ちがあったからこのような事件が起きたと思います。しかし、「ほかの人から」ではなく「自分から」という

気持ちがあれば、時には人の命をすくう事もあります。

テレビの番組で、駅でベビーカーに乗った赤ちゃんが電車の線路に落ちた話を知りました。その時には、周りの人は誰も赤ちゃんを助けようとせず、ただ叫ぶだけでした。電車が来ようとした、その時、一人の青年が線路に飛び降りて赤ちゃんをかかえてホームまで助けたそうです。この青年は、「ほかの人から」ではなく「自分から」という気持ちをもっていたからこそ赤ちゃんを助けられたと思います。

今の社会は、近所や地域のつながりが、だんだんなくなっていくたり、家族の人数が少なくなっていくたりしています。そのため、自分のことを中心に考えて、他の人への関心や思いやりも減ってきているのではないのでしょうか。でも、その気持ちだと誰も行動できないと思います。だから、「ほかの人から」ではなく「自分から」という気持ちを持つ人が増えていけば、社会が明るくなると思います。

僕はこれから、勉強や部活動などにすすんで取り組んでいきたいです。そして、人のためになる行動が自然にできる人になりたいです。

うがいいと思っていました。でも、杉山さんの話を聞いたことよって、挫折を単に失敗だと決めつけず、意味のあるものだと考えられるようになりました。杉山さんのように挫折を乗り越えた人は、挫折する前よりも強く生まれ変わっていると思います。そう考えると、私が今部活で悩んでいることも将来の自分にプラスになる、乗り越えた時には今以上に広い視野を持つ。…と挫折をとらえるようになりました。

杉山さんは、両親の言葉をきっかけに、挫折から立ち直るための道を歩み始めます。挫折を経験したことによって、自分の周りにある大切なものに気づくこともあるんだなと感じました。

大切なことは挫折をするか、しないかではなく、挫折から何を得るか、何に気づくかだと思います。その挫折が大きければ大きいほど、立ち直った後、強い意志を持った人になれるということを杉山さんから教わりました。

私も、これから経験していく挫折から多くのことを学び、将来の自分に生かしていきたいです。

研修視察記

いのちは、守り、受け継がれて…

研修視察参加者 柳 楽 利 子

人は本質的に、全ての生き物の命を大切に育む優しい心を持って生まれています。時には苛立つて、人の心を傷つける行為をすることもありますが、温かい気持ちは変わらないもの…。

会員研修の一環で、六月十四日(十五日、保護司、更生保護女性会、BBS会員二十七名で福岡刑務所を訪問しました。市内を外れた小高い広大な敷地に、新装の建物がずらりと並んでいます。出発してから六時間をかけて到着し、ほっと一息つき、バスに持ち物を置いて下車しました。守衛門で、警備員のチェックを終え、丁寧な出迎えを受け、一列に並んで玄関に向かいました。

玄関に着くと、職員の方に加えて、かわいい子ツバメたちが出迎えてくれました。コンクリートの梁に作られた巣の中で、白いくちばしを並べて親鳥の運んでくる餌を待っています。やがて親ツバメが、案内する職員や私たちの頭の上を遠慮なく通り過ぎて、子ツバメに餌を運んでくれます。驚いたことに、ツバメは、職員や私

たちを少しも警戒することなく自由に所内を飛びかっています。二階の研修室に上がる階段の踊り場に、糞を受け取る新聞紙を敷いた段ボール箱が置いてあり、手すりに、ツバメの糞が落ちていました。

二階の研修室に案内され、貴重品を置き、二列に並んで所内の視察をしました。玄関の天井や階段の踊り場だけに巣があると思っていると、見学の途中、あちこちに巣があります。職員の方にお聞きすると「毎年このように巣を作るので、追い払わないでツバメの成長を見守り、巣立ちを喜んでいきます。職員も入所者も共にツバメ



福岡刑務所

の命を大切にすることを温かい心が大切だと思っています。」と、言いながら案内してくださいま

した。

入所者の居室や受刑者が作業所で働く様子の視察や説明を終えて、研修室にもどり、『施設のしおり』を参考にして、福岡刑務所の概要についてビデオ視聴をしました。

続いて、刑務官の心得として『威あつて、狎れなれしからず』

親しみて、馴れず、彼 また 人たるを知るべし』

と、威儀正しく話され、私たちも姿勢を正して拝聴しました。

そして、「刑務所は、矯正施設であつて、やりがいのある職務であり、使命感をもって受刑者と共に更生を誓つて務めています。刑務官として、受刑者への心情への配慮をし、人間的な温かみを持つて接することが重要であります。特に、病気の者への配慮を十分に心がけること、自害しないか気遣いをする事など、細心の配慮が大切です。

受刑者への指導としては、規律を守らせる。弱いものを守るための配慮をするなどしています。休憩時間には受刑者の悩みを聞いて相談に乗る。受刑者と受刑者との人間関係をづくり、更生への心を導いています。また、国民に理解され、支えられる刑務所でありたいとの目標をもち、

受刑者の作業時間を公表したりして国民に理解を得るように刑務官として心がけています。」と、熱心な説明を聞きました。

受刑者も人の子であり、また人の親でもあります。所内のあちこちに巣を作り、餌をねだつて「チチッ、チチッ」とさえずる子ツバメの声を聞きながら、親鳥たちが交互に餌を運んで、子育てに一生けんめいな姿を見ながら、優しい気持ちになつていのだと思えました。

ツバメは、わが子を育てるために必死です。温かく見守る人間の心を求めています。受刑者も刑務官の温かい見守りと指導を求めています。ツバメの巣作りを容認している刑務官にも優しい心がうかがえました。人は生まれながらにして純真無垢で善良なもの。ふとした心の迷いから過ちを犯すことになつたのでしよう。自分の犯した罪を償うために日々の作業に懸命だと思えます。

私たちは、更生を誓う人たちの心にゆつくりと寄り添つて、地域社会で共に暮らせるように、地域の皆さんと協力しながら立ち直りを支援する大切な役目を担っていることを、改めて深く心に刻んだ研修視察でした。

佐田地区更生保護女性会の活動

会長 和田 智恵美

継続事業について

〇標語を掲示する

佐田地区更生保護女性会は、昭和五十一年八月に設立しました。当時は四十名程度での発足でしたが、現在では九十五名となりました。往時の方々の並々ならぬご努力によって現在がある事に、感謝を致しております。

去る十月七日に、島根県更生保護女性連盟設立五十周年記念大会が、出雲市で開催されました。三十年以上会員である方が十名あり、優先的にご出席を依頼したところ、十名中六名出席をいただきました。三十年以上も、会員として活動していただいている事に、

県更女の五十周年を機に、改めて心から敬意を持ちながら、これからの更生保護女性会の発展に、会員一同、力をそそいでまいりたいと思います。

〇標語を掲示する

昭和五十三年より「あいさつ運動と笑顔の町づくり」をスローガンとし、立看板を町内五カ所に設置し、「おはよう、ありがとう、ごころうさん、交すことばの佐田の町」という言葉を掲示して、町民に親しみを感じてもらっておりました。

以後、町内八十六カ所に標語を掲示するなど、序々に活動を広げていきました。平成十五年からは、毎年一般より標語の募集を行い、その中から十一作を選定して、毎月標語を変えて掲示しています。七月は全国統一の標語を掲示します。

三十数年続いているこの活動です。時には小学校の「学校だより」に、毎月掲載して下さったり、つい先日は他の町の方より

「佐田町は、いい事をしておられますね。私は佐田町を通った時は、必ず車を止めて読ませていただいております。なかなかできない事ですすよ！」と言ってくださり、感激して、その方に深く頭が下がりました。掲示は各地域で会員が行っています。

〇青少年の健全育成

小学校入学時と、中学校卒業時にお祝の品を贈呈しています。

青少年健全育成協議会と一緒に、「あいさつ運動」「みまもり活動」を行っています。

〇毎年一回の総会に研修会を行っています。(講演会など)

〇二年に一回、施設研修を行います。

最近、松江刑務所、美保学園、島根あさひ社会復帰促進センター、わかたけ学園です。

〇毎年一回島根更生保護会に訪問しています。

会員から集めた、お米、野菜、衣類、生活用品等を持って訪問します。

支部活動

五つの支部があり、支部長を中心に、地域のニーズに合った活動をしています。その内容として

●環境美化では「花いっぱい運動」。支部によつては長い花のロードができています

●支部会員全員で、地域の小中学生に、暑中見舞と、年賀状を出しています。児童、生徒はもちろん、保護者からも喜ばれます。

●小学校入学児童に「入学おめでとう」の便りを出しています。中学校卒業生には、「銀も 金も 玉も なにせむに まされる 宝 子にしかめやも」(山上憶良 歌)を会員がお祝の言葉として、短冊にしたため、持参しています。

これからも関係団体のご支援、ご協力を得ながら、地域により添った、ぬくもりのある活動ができるように、会員一同、力を合わせて前進して行きたいと思っております。

更生保護

功労受賞者

(平成二十三年)

法務大臣表彰

足立 進 来海 正和

全国保護司連盟会長表彰

河瀬 康承

島根県知事感謝状

奈島 芳江

中国地方更生保護委員会

委員長表彰

勝島 徹正 小倉 郁子

一ノ瀬隆男

中国地方保護司連盟会長表彰

園山 恵子 和田智恵美

野津 雅史

松江保護観察所長表彰

朝山 一玄 藤本 浄信

天野 良枝 市場 隆子

小村 恵子 園山 幸子

島根県保護司会連合会長表彰

石橋 敏昭 景山 大圓

富岡 俊夫 安田 公臣

出雲地区保護司の紹介

平成二十三年十二月一日現在 (地区別・五十音順)

出雲地域

(今市地区)

一ノ瀬隆男 鈴木 二朗

園山久美子 園山 幸子

(大津地区)

井上 明男 長永 禪教

佐藤 道子 堀江 正俊

安田 公臣

(塩冶地区)

岸 幸子 斎藤 正史

坂本 圭祥 周藤 千雪

宮本 明子

(古志地区)

石橋 敏昭 横木 俊信

(高松地区)

天野 良枝 小倉 郁子

長子 明久 神田修一郎

妹尾 邦昭 安井 守

(四路地区)

朝山 一玄 岡 賢治

園山 恵子 奈島 芳江

(高浜地区)

岸 篤彦 柳楽 泰洋

(川跡地区)

足立 進 鐘築 伸正

藤田 努

(鳶巣地区)

(上津地区)

(稗原地区)

(朝山地区)

三島 洪道 太田 周見 高尾 彬 土井 一顕

(乙立地区) 坂根 光紀

(神門地区)

河瀬 康承 高瀬 泰子

(神西地区)

伊藤 皓元 藤本 浄信

(長浜地区)

勝部 治良 川上 誠

福岡 健文

平田地域

(平田地区)

小村 恵子 高橋 樹男

橘 亮秀 土江 松子

(灘分地区)

荒木 経若 三成 歳子

(国富地区) 安住 文雄

(西田地区) 川瀬 絃一

(鰐淵地区) 野津 雅史

(久多美地区) 岡田 泰明

(檜山地区) 来海 正和

(東地区)

常松 秀紀 森山 正洲

(北浜地区) 松村 正利

(佐香地区) 山岡 孝

(伊野地区) 景山 大圓

斐川地域

(莊原地区)

富岡 俊夫 福岡 百樹

藤森 麗子

(出西地区)

田坂 将 延本 輝典

(伊波野地区) 内部 康正

(直江地区) 市場 隆子

(久木地区) 坂本 光弘

(出東地区)

周藤 昌夫 錦織 博子

佐田地域

(須佐地区)

田部 敏雄 和田智恵美

(窪田地区) 加納 龍雄

多伎地域

石飛 準

湖陵地域

成相 教専 野津 徳男

大社地域

(杵築地区)

勝島 徹正 川本 龍祥

原 洋子 渡部 卓史

(荒木地区)

川上 清子 山根 文夫

(遙堪地区) 和田 晶隆

(日御碕地区) 木村 崇

保護司の異動

退任

柳楽 利子(多伎)

(平成二十三年十一月三十日)

編集後記

昨今、子どもたちが不当な扱いを受けるなどの問題が発生しています。そこで、島根県出雲児童相談所長石橋昌彦様に執筆をお願いしました。

多くの人が現状を理解され、子どもたちを守ることに繋がってほしいと思います。(安田公臣)